



「 ボランティアを通して得られる目に見えない力とは 」 校長 中野 瑞枝

朝夕は、かなり気温が低くなりました。日没も早くなり生徒の下校時刻が過ぎるころには、大分暗くなりました。この季節になると「秋は突然やってくるものだ」と、遠い昔に耳にした誰かの口癖を思い出しました。小田中のハーブガーデンは KCS の皆さんを中心に地域ボランティアの皆様、個別級の生徒、水やりをしてくれる委員会の生徒が、手入れをしていただいているおかげで、秋の花や草木が楽しめます。

さて、この10月は、地域のお祭りやスポーツフェスティバル、運動会が毎週末に開催されていました。生徒もボランティアとして参加しました。10月、11月は、部活動の秋季大会があるので「参加できる生徒は少ないのではないかと」気にしていましたが、結構な人数が集まり感心しました。「ボランティアの参加、偉いね」と、生徒に声をかけると「えへへ…」と照れていました。地域で慣れ親しんでいる行事や小学校の運動会は、自分の身近な行事と考えているようです。大きな声を出して元気よく活動している生徒の表情は、生き生きとしていました。

2014年「子ども・若者白書」(内閣府発行)の調査によると「自分自身に満足している」と答えた日本の若者は45.8%と調査した7か国の1位アメリカ 86.0%と比較してかなり低いということが言われました。若者の自己肯定感を育むためには、家庭・学校・地域が一体となって見守り支える環境づくりが重要であると報告されています。さらに、若者のボランティア活動がキャリア教育にも影響するとの報告もされています。生徒にとっても実際に体験したことで感じる「楽しさ」や「満足感」は大切な感性であると思います。



金沢区いきいきフェスタで他校の生徒と一緒にフランクを販売中の生徒



小田小運動会にてボランティアで集まった生徒

「音楽祭の延期・・・、それぞれの生徒の思いを一つにして次に繋げてほしいと願いながら・・・」

先日、10月27日(金)に予定していた音楽祭の延期についてのお知らせを配布させていただきました。インフルエンザ、風邪症状の生徒が10月上旬から増えたり回復したりの繰り返しで、とうとう、今週の月曜日、火曜日と多数の生徒が欠席となり、このまま合唱練習を続けて本番に向かえば、欠席者は増えていき音楽祭当日には、かなりの生徒が感染し欠席になってしまう状況が予測され、観賞していただく保護者を含めてクラスターが発生する可能性もあります。検討した結果、3年生の受験がひと段落した頃の3月上旬に延期することとさせていただきました。頑張っている生徒たちのことを思うと2度も延期となることの判断に苦しみました。しかし、クラスターが発生することを予想しながら、開催するわけにはいきません。残念ではありますが、保護者の皆様には、ご理解いただけますと幸いです。

生徒には、全校放送で校長から思いを話し、担任からも、また次に向かっていこうと話をして、クラス内でこれまでの頑張りを讃え合いました。特に力を入れて取り組んできた音楽祭実行委員や吹奏楽部、また、各クラスの指揮者、伴奏者の生徒、演出に関わった生徒には、そのケアをしてもらうように、担当の教員から「ここで一旦仕切り直しになるけれど、みんなで心をつなげてよりパワーアップしていこう」と声をかけてもらいました。